

# 先祖の話

めざす会幹事 大津寄章三

数年前にふと思いついて家系図を作ってみた。

それによると私の五代前の当主は亀作という人物であり、岡山県吉井村という山間に住まっていたらしい。没年は不明であるが、彼の二番目の娘は弘化2年（1845）の生まれであるから、おそらく亀作翁は文政年間に生まれたのであろう。するとだいたい勝海舟と同時代の人である。

彼の長男は兼次郎という。生年は不明だが没年は明治17（1884）年である。なお、長男でありながら「次郎」という二男らしき名がついている理由は不明である。江戸期は五歳までの死亡率が過半数であったため、実の長男は出生後届け出をする間もなく亡くなったのかもしれないし、何かのゲン担ぎなのかもしれない。

兼次郎翁には二男一女がおり、長男は庄次郎という。私のひいじいさんに当たる。安政元年に生まれ、明治28年に亡くなっているので満41歳という短命である。歴史的な事件に置き換えれば、「日米和親条約」から「日清戦争」までを生きたと見えよう。思春期にご一新をむかえている。なお、二つ年下のひいばあさんは昭和10年まで生き、当時としては長命の79歳で天寿を全うしている。

その長男、つまり私の祖父は朝次郎という。どうもわが家は「次郎」を代々跡継ぎにつけていたらしい。明治26年生まれであるから、祖父は二歳でその実父と生き別れたことになる

学生時代に祖先が暮らしていたという岡山県の現・井原市を訪ねたことがあるが、親戚いわく、この一帯は「見渡す限りうちの地所」であったという。つまりわが家は大した分限者であり、大庄屋だったのである。農民身分でありながら幕末から名字帯刀を許されていた、とも聞いた。実際、身分制度が揺らぐにつれ大地主や豪商などは武士の家系図を買い取り、しばしば系図を改竄したことは広く知られている。

さらに私は菩提寺の住職から、祖先が兼業していたという「大黒屋酒店」と表裏に書かれた大きな板看板をもらい受けた。今もそれは書斎に保管してあるが、どうも祖先は小作料として集めた大量の米を酒に醸造して販売し、今で言う高利貸しを営んでいたふしがある（この看板は歴史の授業で、なぜカネ貸しを「酒屋」というのか、というくだりの教材としてよく活用させてもらった）。

ところが私にとっての祖父と言え、呉市の町中でわずか一間しかない家に住み、細々と卵やアイス売る店を営んでいた記憶しかない。がんぜない私はそこへ行くとアイス食べ放題だったのでうれしくて仕方なかった記憶しかないが、きっと貧しい暮らしだったのであろう。大地主の嫡男がなぜそのように没落したのかは不明である。バクチで擦ったという説もあった。土地を守ってくれていれば、もしかして私は今頃資産家のボンボンとしてニースあたりの別荘で過ごしてたかもしれない、と生徒と笑ったものである。

祖父の葬儀は私が9歳のときであった。享年72。除籍簿には「普賢院覚道明照居士」という戒

名が記されている。私が生まれたとき、祖父は「ねんねこ半纏」に私を背負い、「うちの孫でがんす」と近所中に見せて回ったという。

さて、祖父には五人の息子がいた。長男（大秀才であったらしい）は18歳、次男は9歳、三男は7歳とみんな夭折している。大正十年生まれの私の父は四男であったが、繰り上がり長男ということになった。五男は三年前亡くなった広島叔父である。

父もまた頭がよかったらしいが家が貧しかったため、船員となり学費を稼ぎながら電気関係の学校に通ったという。戦時中は通信兵としてランドセルのようなでかい通信機を背負って大陸（チンタオあたり？）を駆けていた。任務上後方に位置することが多かったため、何とか戦死せずに復員してきた。父は晩年までまめに戦友会に出席していたものである。

父が四国にいた母と結婚したのは昭和25年。なぜ四国に縁があったかという、祖父の後妻が松山市の出身であったため、こちらによく来ていたからである。後妻さんは母と親戚であるから、祖父の再婚がなければ私の両親は知り合っていないことになる。

それから6年後、母の実家方から私はこの家に養子としてもらえることとなった。したがって、半纏で背負ってくれた祖父と私には血縁関係はない。広島叔父には一人息子がいたが、離婚した後、一昨年亡くなったためその血筋も絶えてしまった。一応家名の方は私から長男、さらに六歳になる男の孫に引き継がれるはずである。

今日、家系などはそう注目されないのかもしれない。しかし、わかる範囲（8代約150年）を一覧表にただけでも、いかに多くの係累が自分を取り巻いているかは瞭然である。人は必ず親から生まれる。ご先祖のだれ一人が欠けても自分の誕生はありえない。

とすれば、私たちはやはりこの命を次代に可能な限り伝えなくてはならないのであろう。自己の生を肯定する、とは同時に親になることを選んだ先祖の決断を自分もまた受け継ぐということでもある。

人間を「個」としてしか見られなくなっている現在、連続した命の線としてとらえ直すという視点はもっと見直されてもいいのではないか。学校現場でも意外とそれはいじめを防ぐ大きな力になるような気がしてならない。

## 日本会議と教団生長の家の変節



「日本会議の研究」（著者・菅野完氏）を読まれたでしょうか。菅野氏は「僕は物を書くために物を書いているつもりは一切ないし、学術論文書いているわけでもないの、取材倫理とかクソ食らえとおもっている」「日本会議が日本会議として動けなくなるようにすると大変面白い」などとツイッターに書く人です。（こんな本をなぜ扶桑社が出版したのでしょうか。）

一方、宗教法人生長の家は日本会議の前身である「日本を守る会」の発足時からの主要メンバーでありました。現在、生長の家創始者・谷口雅春先生のお孫さん、雅宣氏が3代目の総裁をされています。かつて渡部昇一先生は「雅宣氏は極左だ」と断言されました。教団は機関誌7月号で、「与党とその候補者を支持しない」という特報を組み、「『生長の家の方針』に関するQ&A」を掲載、その中で、創始者、

谷口雅春先生の教えとその運動を、ひいては日本会議を中傷・非難、この「日本会議の研究」を悪活用しております。

14年ほど前に設立された「谷口雅春先生を学ぶ会」は、その会報の臨時増刊号で教団の誤りを悉くただしています。何かのご参考になればと存じまして同封させていただきました。

教団では大東亜戦争は侵略戦争であったとしています。しかし谷口雅春先生は「この人類進化の宇宙周期の完了に際して、白色人種と同等に『神の子なり』との自覚を得て独立すべき宇宙プログラムを現象界に実現する時機至り……その偉大なる犠牲的役割を演じて自己の生命を献げて人類進化に道をひらきたるが、あの大東亜戦争において戦死されたる卿など日本軍の将兵たちなり……今上天皇陛下が、平和愛好の御心にて あの大東亜戦争開始に反対の意思をなされ……たるにも拘わらず戦争を抑止することを得ず……まこと以て あ戦争が人類進化の過程として道を拓くべき宇宙的プログラムにして何れの国民かが犠牲となって大東亜およびアフリカ民族の自覚促進に貢献する宇宙的必要必須の使命を果たす必要ありたるが故なり」（「大東亜戦争無縁戦没者英霊に捧ぐる辞」より）と書かれています。英霊の御霊をお慰めするのにこれ以上の言葉があるでしょうか。

## 新聞投稿『昔の医療と今の医療』に思うこと

産経新聞の、年金や医療、介護への疑問や体験に関する読者投稿欄に、今月6日に大阪府の88歳の方の投稿が掲載されました。

父も弟も脳出血で倒れました。父は亡くなって今年で50年になります。父が倒れたとき、往診に来た医者は「動かさずに、そっとしておいてあげてください」とおっしゃいました。気持ちよさそうにいびきをかいて寝ていた父は2日後、苦しまずに亡くなりました。

弟は脳出血で倒れて2年になります。日頃から、自分も父のようにすんなり逝きたいと子供たちに言っていました。

ですが、今の時代は、なかなかそうはいかないようです。救急車で搬送され手術を受け、胃瘻はやめていただきましたが、栄養の点滴で意識のないまま入院しています。弟は自然死を望んでいたのに、見ているのがつらいです。



私の母は7月16日に救急車で掛かり付けの病院に搬送されました。誤嚥性肺炎でした。数日後に肺炎はよくなりましたが、血液検査の結果がよくないからと薬が増え（それまでは7種類）、また検査、また薬が追加。入院が長引くに連れ、母は食欲も失せ、立つこともできなくなりました。食べないからと点滴。最初は水分補給だったはずが、色が付き、回数が増えました。

2日半の怒濤の折衝を経て、8月5日夕方退院。久しぶりに自宅のベッドに横になった母の満足げな顔といたらありませんでした。3日後には介護タクシーに酸素ボンベを積んで実妹の墓参り、村のお地藏さん参りをしました。入院呆けも日々抜けてきて判断力が戻りつつあることに胸をなで下ろしています。

隣に住む孫が1歳10ヶ月のひ孫を連れて訪問してくれるのが何よりも嬉しく、月末には入院前に通っていたデイケアに復帰致しました。

# 愛媛親学基礎講座の受講のお願い

めざす会の会員の方は立派に子育てを卒業され、また孫育てにいそしんでおられる年代の方が多くおられると思います。これまでの子育て・孫育てのご経験に「親学」をプラスして、「日本の子育て」を変えていきませんか。子育てを変えることで日本の再生に貢献しようではありませんか。

今まで高橋先生のご講演を何度も拝聴し、そのご活躍に敬服してきた私達が、愛媛の親学推進の中核となって、日本の素晴らしい子育てを復活させようではありませんか。

受講のご案内を同封いたしました。是非、ご受講下さいませ。また、お近くのご縁のある方にお渡し下さいませ。ちらしには、後援申請先が書かれておりますが、以下のところから既に承諾をいただいております。

松山市・松山市教育委員会・（一財）愛媛県私立幼稚園協会・愛媛県幼稚園連合会・愛媛県モラロジー協議会・愛媛新聞・朝日新聞松山総局・読売新聞松山支局・産経新聞・南海放送・テレビ愛媛・愛媛朝日テレビ・愛媛CATV

## ◆◆◆ 事務局から ◆◆◆

★埼玉県で井上翼さんが少年たちに殺されるという恐ろしい事件がおきました。川崎市で上村遼太郎が殺された経験は活かされていません。この春頃、近くのコンビニのイートインコーナーで夜中過ぎまでパソコン作業をしておりましたが、午後11時過ぎても未成年が残っている場合は松山南署に電話をし、見回りをお願いしました。「未成年ちゃうの？」と声をかけることもありました。こういう小母さんはきっと犯罪の未然防止に役に立っているに違いありません（自画自賛）。

★いつも通信と封筒は、松山市内の愛媛県モラロジー協議会の事務所で印刷させていただいておりましたが、目下、家の事情であまり外出できず、会報の印刷も封筒もイレギュラーになりました。

★63号でお願いいたしました「放送法遵守を求める視聴者の会」の署名を、宇和島の中畑利介社長が310筆をお送り下さいました。早速、東京の事務所にお送り致しました。中畑社長、ありがとうございました。

★会費の切れる会員の方には払込用紙を同封しております。引き続きご支援下さいますようお願い申し上げます。年会費は現在、2,000円でございます。封筒のアドレスシールの住所のあとの数字は今まで会費を納入していただいた〈年と月〉を表しています。

### 健全な男女共同参画社会をめざす会

会長 青井美智子 〒791-0221 東温市上村甲218

電話 090-8971-7721 Fax 089-964-3903

.....  
http://www.mezasukai.com/ ｽ-ﾙmichikoaoi25@yahoo.co.jp .....  
.....